

平成22年3月期
決算説明会

2010年 5月 28日

株式会社 エスイー

JASDAQ :3423



将来の計画に関する記載は、現在において入手可能な情報および仮定に基づき作成しており、実際の業績はさまざまな要因により計画と異なる場合があります。

目次

- I. 平成22年3月期業績および23年3月期業績予想
- II. 平成22年3月期 事業報告
- III. SECグループの今後の戦略

I. 平成22年3月期業績および23年3月期業績予想

1. 平成22年3月期 財務諸表

2. 平成23年3月期通期 連結業績予想

1. 財務諸表：損益計算書(連結)

(単位:百万円)

	平成21年3月期 実績	平成22年3月期 実績	対前期増減	
売上高	11,412	13,651	2,239	19.6%
営業利益	375	615	239	63.7%
経常利益	463	690	226	48.9%
当期純利益	243	396	152	62.7%
一株当たり当期純利益	31円77銭	51円68銭	19円91銭	

主な増減要因(前年同期比)

売上高

- 環境・防災事業は『アンカー』・『落橋防止装置』で堅調に売上高を伸ばし増収(266百万円 3.2%増)
- 橋梁構造事業は斜材架設物件の一巡で『橋梁(FUT-H)』・『斜材(FUT-H)』が大幅減少したものの、(株)アンジェロセックでの海外物件消化が順調に推移し増収(178百万円 6.2%増)
- バイオマス・その他はエスイー朝日(株)・(株)キョウエイが連結対象子会社に加わり、大幅な増収(1,793百万円616.8%増)

営業利益

- 利益率の高い工場製品の拡販や原材料価格の安定に支えられ売上総利益率は1.3ポイントの改善
- 販売費及び一般管理費(556百万円 20.3%増)

経常利益

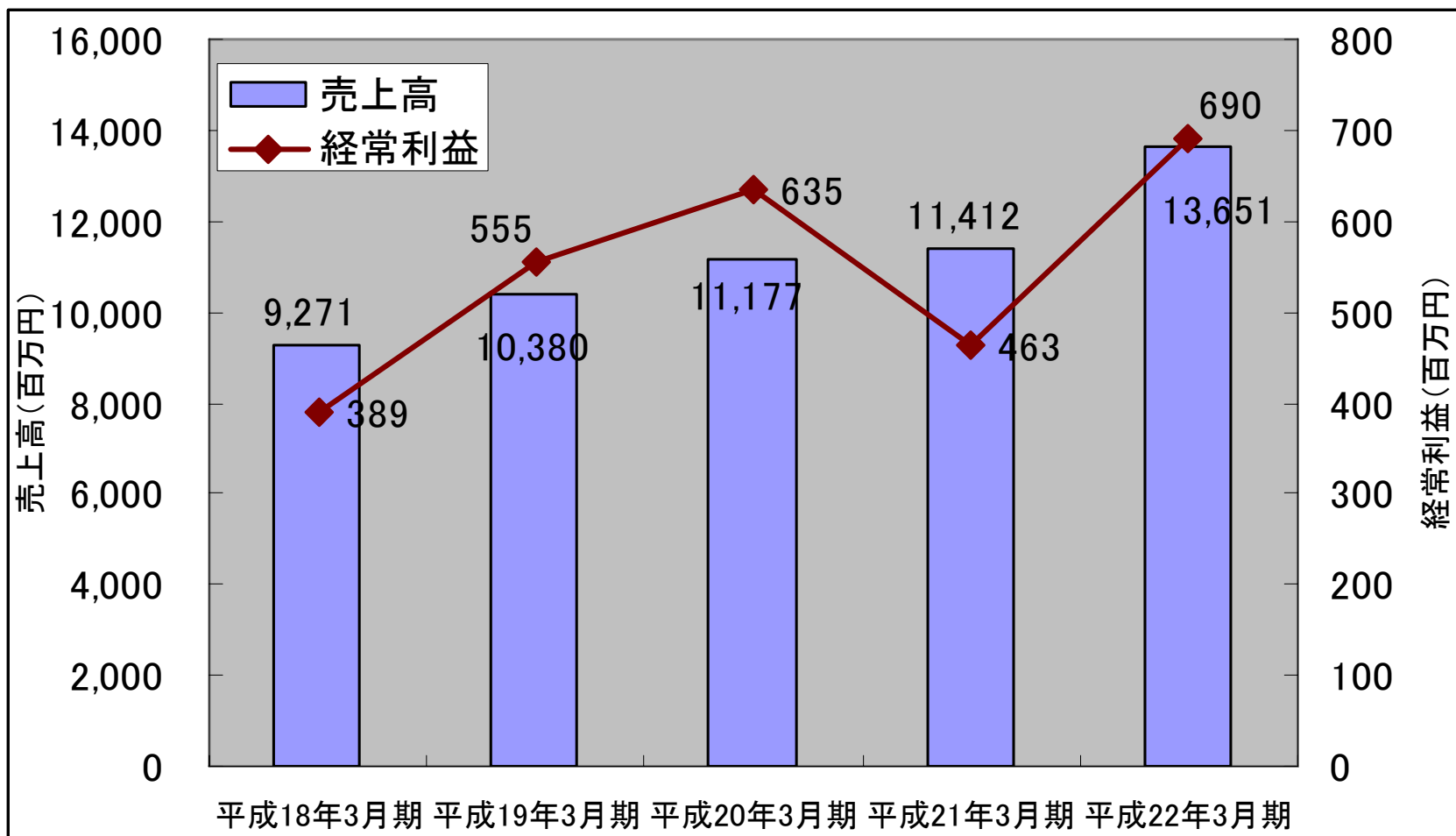
- 借入金増加に伴う支払利息や社債発行費の増加

当期純利益

- 本社事務所移転関連費用の発生

1. 財務諸表：売上高・経常利益の推移

(連結) 売上高・経常利益の推移(平成18年3月期～平成22年3月期)



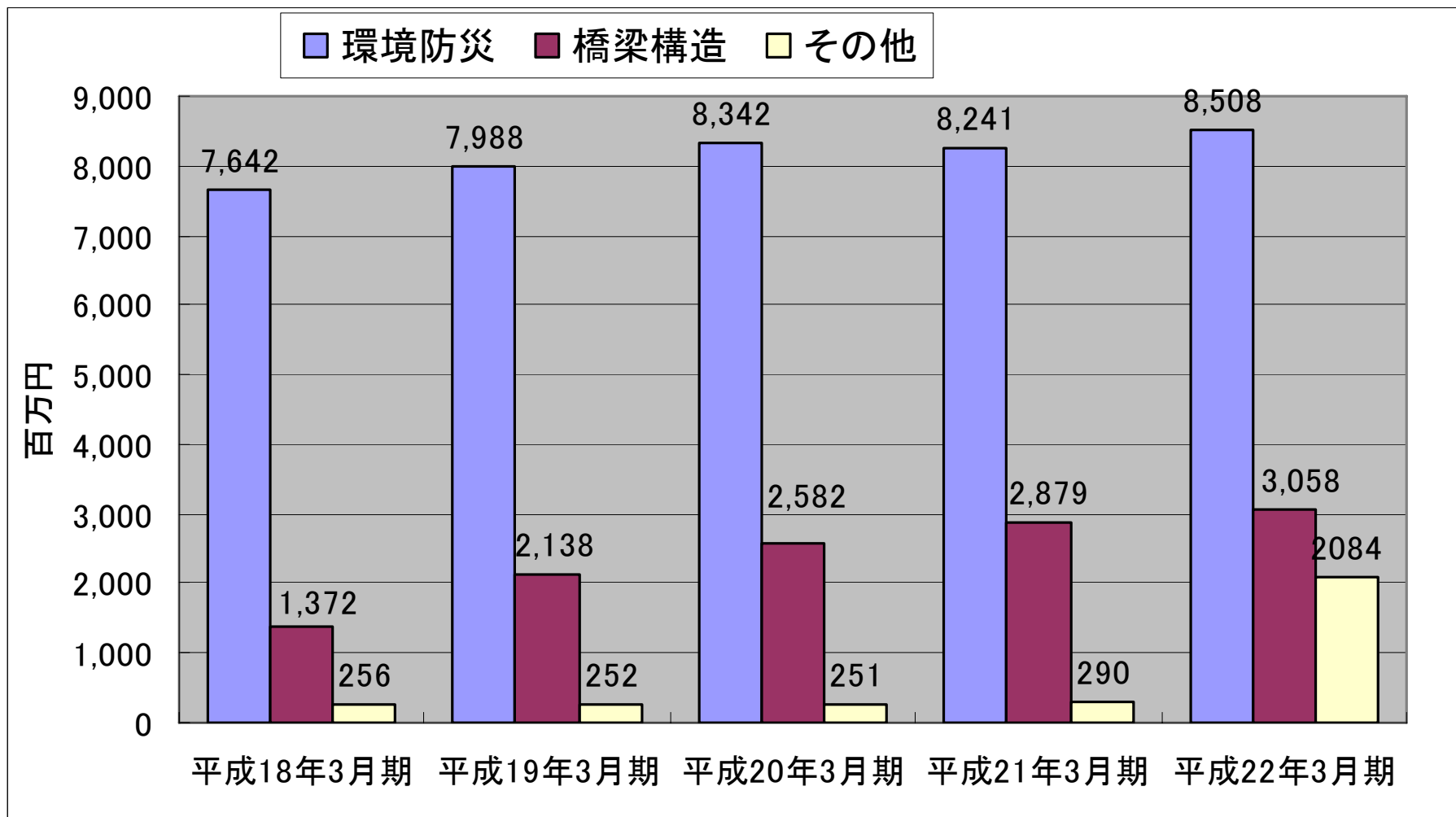
増収増益を達成

1. 財務諸表：分野別売上高・粗利益(連結)

区 分		平成21年3月期 実績		平成22年3月期 実績		対前期増減	
		百万円	構成比	百万円	構成比		
環境・防災 事業	売 上	8,241	72.2%	8,508	62.3%	266	3.2%
	粗 利 益	2,510		2,765		255	10.2%
	利 益 率	30.5%		32.5%		—	2.0ポイント
橋梁構造 事業	売 上	2,879	25.2%	3,058	22.4%	178	6.2%
	粗 利 益	512		502		△9	△1.9%
	利 益 率	17.8%		16.4%		—	△1.4ポイント
バイオマス ・ その他	売 上	290	2.6%	2,084	15.3%	1,793	616.8%
	粗 利 益	88		639		550	618.7%
	利 益 率	30.6%		30.7%		—	0.1ポイント
合 計	売 上	11,412	100.0%	13,651	100.0%	2,239	19.6%
	粗 利 益	3,111		3,907		795	25.6%
	利 益 率	27.3%		28.6%		—	1.3ポイント

1. 財務諸表：分野別売上高の推移

(連結) 分野別売上高の推移(平成18年3月期～平成22年3月期)



堅調な売上増を達成

1. 財務諸表：貸借対照表(連結)

(単位:百万円)

	平成21年3月期末	平成22年3月期末	対前期増減	
流動資産	8,895	10,882	1,986	22.3%
固定資産	4,429	5,729	1,300	29.4%
資産合計	13,324	16,611	3,287	24.7%
流動負債	5,449	6,521	1,072	19.7%
固定負債	2,087	4,007	1,920	92.0%
負債合計	7,536	10,528	2,992	39.7%
純資産合計	5,788	6,082	294	5.1%
負債・純資産合計	13,324	16,611	3,287	24.7%

(平成21年3月期末)

(平成22年3月期末)

■ 自己資本比率

43.4%

36.6%

■ 一株当たり純資産

753円35銭

791円55銭

1. 財務諸表：キャッシュ・フロー計算書(連結)

(単位:百万円)

	平成21年3月期 実績	平成22年3月期 実績	対前期増減	
営業活動によるキャッシュ・フロー	897	310	△586	△65.3%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△378	△604	△226	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	210	1,304	1,094	520.7%
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△1	△0	—
現金及び現金同等物 増減額	727	1,009	281	38.7%
現金及び現金同等物 期首残高	754	1,482	727	96.5%
現金及び現金同等物 期末残高	1,482	2,491	1,009	68.1%

主なCF項目の要因

- 営業活動によるCF: 税金等調整前当期純利益 657百万円、のれん償却を含む減価償却費351百万円、貸倒引当金の減少額 △116百万円、仕入債務の減少額 △621百万円など
- 投資活動によるCF: 有形固定資産の取得による支出 △207百万円、子会社株式の取得による支出 △360百万円(純額)など
- 財務活動によるCF: 長期借入による収入 2,200百万円、長期借入金の返済による支出 △1,600百万円、社債の発行による収入 850百万円など

I. 平成22年3月期業績および23年3月期業績予想

1. 平成22年3月期 財務諸表

2. 平成23年3月期通期 連結業績予想

2. 平成23年3月期通期 連結業績予想

(単位:百万円)

	平成22年3月期 通期 実績	平成23年3月期 通期 予測	対前期増減	
			増減額	増減率
売上高	13,651	17,350	3,698	27.1%
営業利益	615	814	198	32.3%
経常利益	690	900	209	30.3%
当期純利益	396	537	140	35.3%

◆ 平成23年3月期 期末配当金 1株当たり 20円 (予定)

■ 一株当たり当期純利益・配当金及び配当性向の推移(連結)

	平成18.3期	平成19.3期	平成20.3期	平成21.3期	平成22.3期	平成23.3期 (予想)
一株当たり 当期純利益(円)	27.55	35.02	50.17	31.77	51.68	69.93
一株当たり 配当金(円)	15	※ 20	20	20	20	20
配当性向(%)	54.4%	57.1%	39.9%	63.0%	38.7%	28.6%

※ 平成19年3月期の配当金は記念配当5円を含む。

II. 平成22年3月期 事業報告

1. 平成22年3月期の振り返り
2. 事業報告

1. 平成22年3月期の振り返り

- ひきつづき厳しい市場環境にありながらも、増収増益を達成。

エスイーの既存事業の堅実な実績、市場占有率の確保

市場環境への対応

- ・「補修・補強」分野への注力
- ・既存製品の新用途展開

新たに連結対象となった子会社の貢献

- ・エスイー朝日(株)：2009年4月全株式取得
- ・(株)キョウエイ：2010年1月全株式取得

アフリカ等の海外事業の進展

- ・子会社である(株)アンジェロセックによるアフリカ等におけるODA案件の獲得

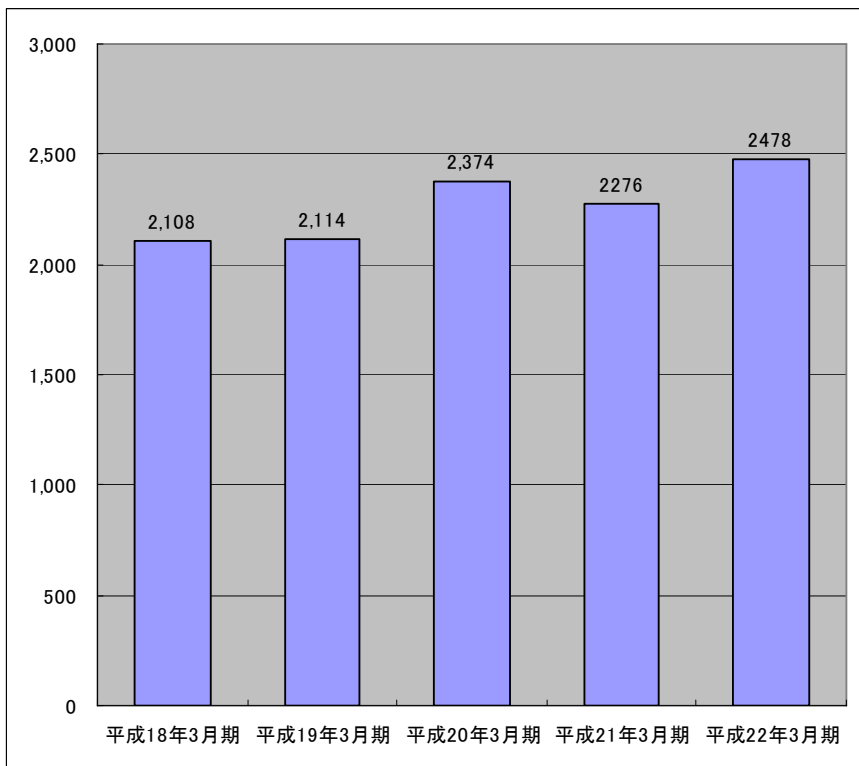
II. 平成22年3月期 事業報告

1. 平成22年3月期の振り返り

2. 事業報告

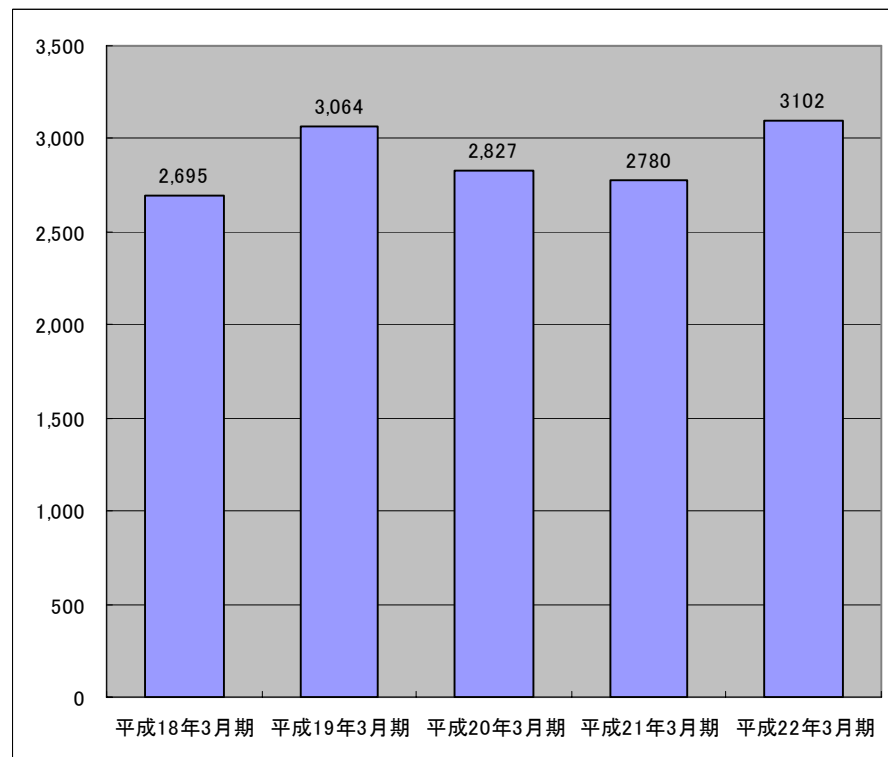
2. 事業報告：環境・防災分野 売上推移

【アンカー売上推移】



北海道地区での引張型アンカーの拡販、発電所関連の案件の獲得により、「法面」以外の用途を中心に順調に売上を伸長

【落橋防止装置売上推移】



国土交通省の重点施策である橋梁の耐震補強事業により堅調に推移

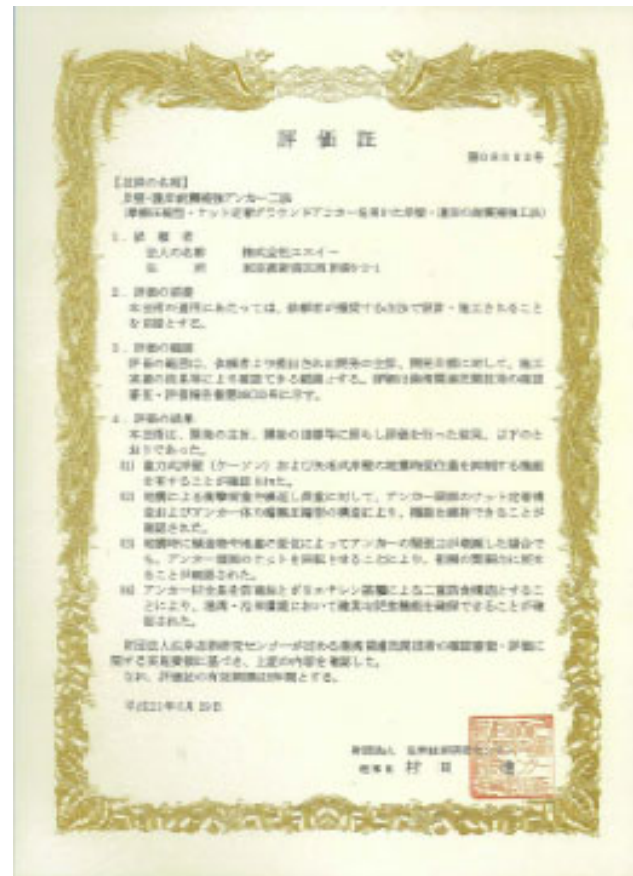
厳しい市場環境においても堅実に実績を残す

『岸壁・護岸補強アンカー工法』が(財)沿岸技術 研究センターより新規評価証を取得 (2009/5/29)



主な実績

- ・宮崎港(西地区)岸壁改良工事
- ・長崎港(松ヶ枝地区)岸壁改良工事
- ・横浜港南本牧埠頭耐震補強工事
- ・小田原漁港整備工事1号防波突堤耐震強化



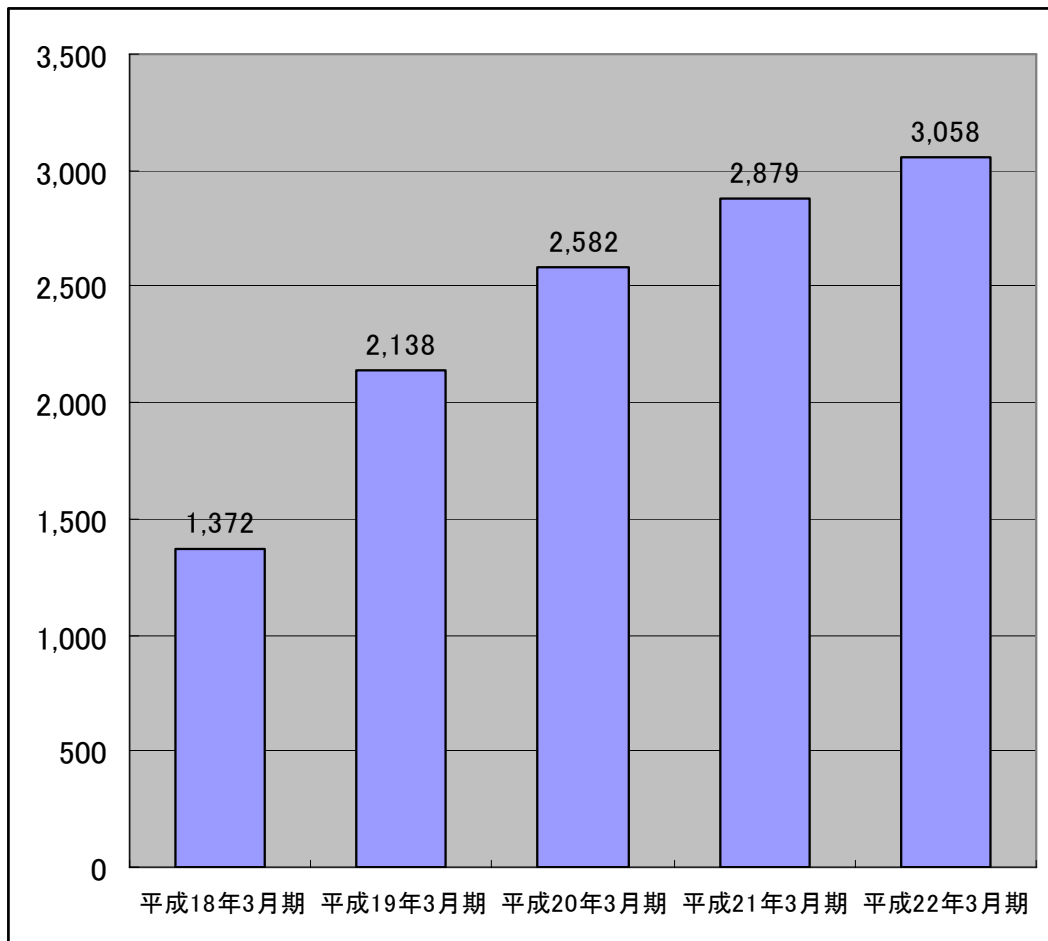
(財)沿岸技術研究センター 港湾関連民間技術
確認審査・評価報告書第08003号

港湾(スーパー中枢港湾)等の補強ニーズの取り込みへ

2. 事業報告：橋梁構造分野 売上推移

【橋梁構造分野売上推移】

(百万円)



近江大橋(滋賀)の補強プロジェクトでは、当社の外ケーブルが採用された

本件次期工事では、外ケーブルの供給を行うとともに、当社が主要工事の一端も担う予定である

堅実な成長を達成

2. 事業報告：橋梁構造分野 トピックス

当社FUT-H型斜材ケーブルが(財)土木研究センターより
建設技術審査証明書(建技審証第0906号)を取得
(2010/3/31)



主な実績

矢部川大橋(福岡)



銚子大橋(千葉/茨城)



鷹島肥前大橋(長崎/佐賀)



架設中の生名橋(愛媛)、栄川大橋(山口)、新曾木大橋(鹿児島)、
華明大橋(韓国)などでも使用

容易なケーブルの張力管理、耐疲労・耐食性能にも優れる

2. 事業報告：橋梁構造分野 トピックス

当社のケーブルおよび落橋防止装置を採用した『猿田川橋・巴川橋』
が土木学会田中賞を受賞(2010/5/7)

猿田川橋・巴川橋
(静岡県：新東名高速道路)



件名	第二東名高速道路 猿田川橋(PC上部工)上り線工事
工期	2006/4/7~2009/12/31
橋梁形式	猿田川橋(上り線) PC7径間連続複合トラス橋 L=600m
	巴川橋(上り線) PC5径間連続複合トラス橋 L=489m
納入材料	FUT12T15(内ケーブル)、FUT19T15(外ケーブル) 落橋防止装置

橋梁・鋼構造工学における優れた業績に対して授与

現在架設中の主な大型斜張橋プロジェクト

栄川大橋(山口)

3径間連続複合曲線斜張橋
(290m = 190m+53m+47m)

斜材ケーブル

- ・ 26H～78H タイプ
- ・ 1面吊 12段 (総数 24 本)
- ・ ケーブル長: 39m～160m
- ・ ヘリカルリブ付保護管



生名(いきな)橋(愛媛)

3径間連続鋼・コンクリート複合斜張橋
(515m = 100m+315m+100m)

斜材ケーブル

- ・ 19H～37H タイプ
- ・ 2面吊 15段 (総数 120 本)
- ・ ケーブル長: 20m～150m
- ・ Uストラップ保護管(一部)



新曾木大橋(鹿児島)

2径間連続PC斜張橋
(204m = 97m+107m)

斜材ケーブル

- ・ 23H～32H タイプ
- ・ 2面吊 12段 (総数48本)
- ・ ケーブル長: 39m～160m



(いずれも2010年5月撮影)

2. 事業報告：橋梁構造分野 竣工プロジェクト

主な竣工プロジェクト

夢翔大橋(奈良)

工事名称	一般国道168号地域連携推進事業 (国道改築)工事(仮称)1-1号橋
施工場所	奈良県五條市大塔町辻堂
発注者	奈良県
工期	2007年3月16日～2010年3月26日
橋長	290m
支間	42.250m+127.000m+119.700m
構造形式	PC3径間連続エクストラドーズド橋



新新荘川橋(高知)

橋梁形式	ダブルワーレントラス式ニールセンローゼ橋
総鋼重	約700t
橋長	122.8m
支間長	121.5m
架設工法	ケーブルクレーン



2. 事業報告：橋梁構造分野 架替えプロジェクト

● 余部橋架替え工事(兵庫)

当社の斜材および内ケーブルを導入

橋梁形式	5径間連続PC箱桁エクストラード橋
橋長	310.6m、幅員 7.25m、最大支間長 82.5m

2010年8月12日供用開始予定。

従来の鉄橋では、風速20メートル以上で列車が運休になるが、新しい橋は軌道面から高さ1.7メートルの防風壁を備えている。強風による列車運休本数を年平均で90%減らすことが見込まれ、利用者にとって大幅な利便性の向上が期待される。

従来の鉄橋は明治時代に開通した日本を代表する鉄道橋

明治45(1912)年3月開通、98年経過した現在でもトレスル橋としては橋長、橋脚数ともに日本一(開通当時は東洋一の橋長・橋高)、米アメリカンブリッジ社製の橋脚鋼材を使用するなど、近代日本の土木構造物としてその価値は高い。



2010/05撮影

2. 事業報告：海外市場への進出 華明大橋(韓国)

韓国釜山：華明大橋

当社と韓国兌和(TAI WHA)及び、フランス・アンジェロップ社との合弁会社であるTISとの協業プロジェクトとして推進

韓国現代⇔TIS 総額:5,450百万ウォン (約:4億1,900万円)

(レート:1円=0.077Won:2009年5月28日現在)

2008年3月正式締結 2009年4月より施工開始

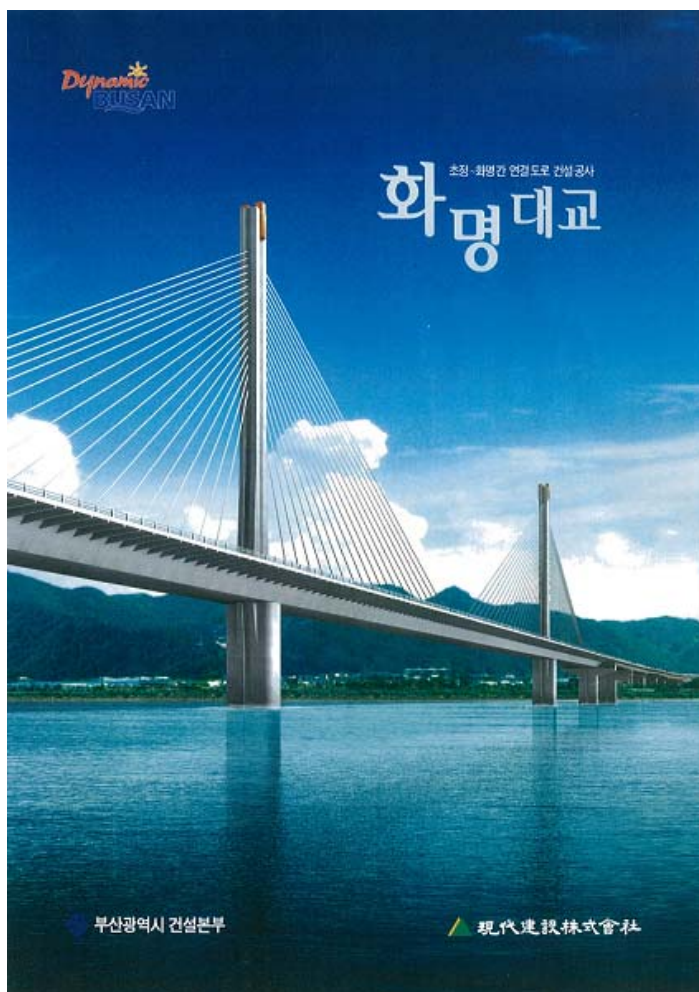


(2010/05撮影)



韓国釜山：華明大橋

当社と韓国兌和(TAI WHA)及び、フランス・アンジェロップ社との合併会社であるTISとの協業プロジェクトとして推進



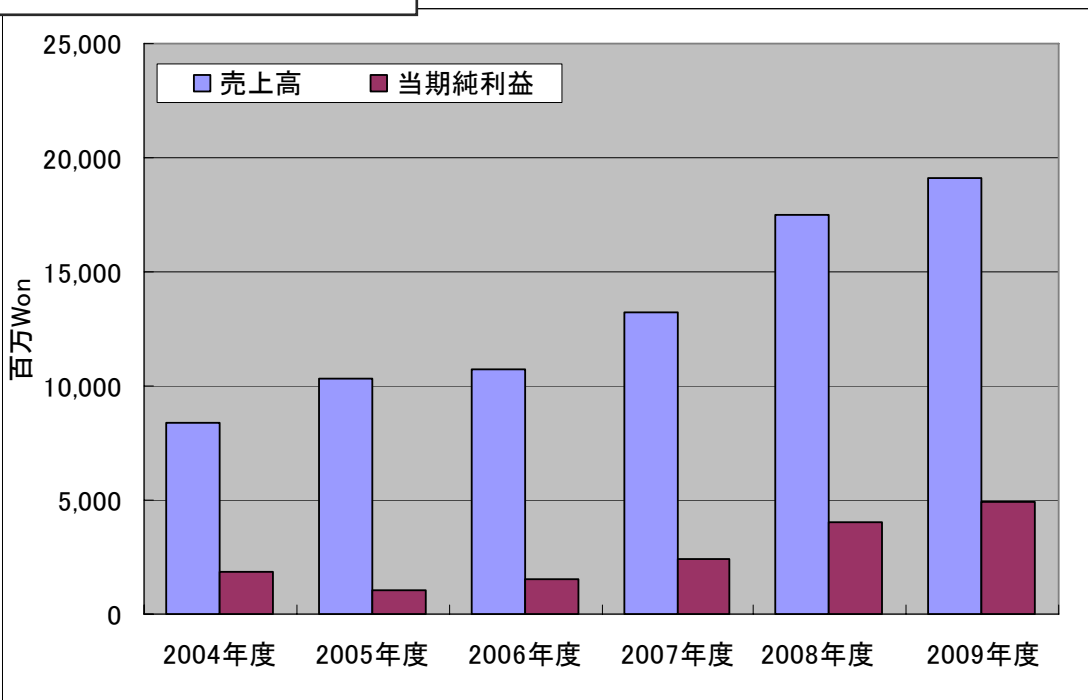
韓国・現代建設のパンフレットより抜粋

2. 事業報告：海外市場への進出 K-SEC(韓国)

株式会社コリアエスイー(持分法適用関連会社(当社持株比率約26%))が
堅実な成長を継続、当社連結業績への貢献

103百万円(営業外収益:持分法による投資利益)の当社連結経常利益への貢献
(前期100百万円の貢献)。

コリアエスイー業績の推移



今後、韓国国内の主要運河のプロジェクト等が見込まれる

2. 事業報告：海外市場への進出 ベトナム

● V-JEC(日越建設コンサルタント、Vietnam Japan Engineering Consultants)

ベトナムの建設土木の分野で権威ある大学Hanoi University of Civil Engineering (HUCE)との合弁会社として、平成19年12月に設立。

ベトナム国内およびASEAN地域におけるプロジェクト獲得をめざす。

目的

- 社会インフラ、交通インフラの早期整備が必要なベトナムの国土開発に貢献

業務内容

- 設計コンサルティング、ソフトエンジニアリング
(鉄道・道路・橋梁・都市開発・工業団地・大学建設など)

基本戦略

- 政府レベルと川上で交渉し、ODAプロジェクトを獲得
- 政府機関にエンジニアを数多く輩出しているHUCEと提携し、プロジェクトの早期仕込みに努める

本年度受注 大型プロジェクト

- ハノイ／ハイフォン間 高速道路(約120km)プロジェクト
PPPによるプロジェクト(韓国、中国、チェコ)
施工監理 今期受注額1,200,000米ドル
(受注総額:3年で約500万米ドル)



ハノイ／ハイフォン間高速道路
プロジェクト調印式

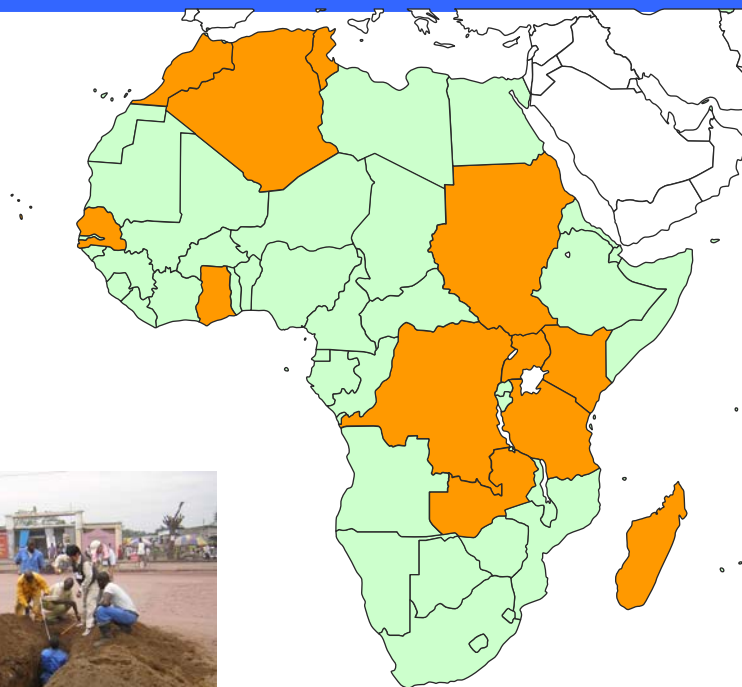
今後はASEAN地域への展開をめざす

2. 事業報告：海外市場への進出 アフリカ

● アンジェロセック

フランス語圏アフリカ諸国における
JICA/ODAプロジェクトに関して、
アンジェロセックは日本の代表
的な国際建設コンサルタントとし
ての地位を確立

- ◆ 経済開発
- ◆ 水エネルギー環境開発
- ◆ 道路セクター／運輸セクター
- ◆ 構造・橋梁
- ◆ 機材整備
- ◆ コンストラクションマネジメント
- ◆ 保全・補修・リサイクリング
- ◆ 防災
- ◆ 持続可能な開発と研究
- ◆ 建設・都市計画・産業施設



人道支援関連現地調査
(スーダン)



農業用水事業評価調査
(ケニア)



道路改修現地調査
(コンゴ)



道路整備 施工監理
(マダガスカル)



道路整備現地調査
(タンザニア)



給水事業評価調査
(ウガンダ)

アフリカでのODAにおいて有数の実績を誇る

2. 事業報告：バイオマス分野

大手ファミリーレストランへの野菜破碎脱水機納入

野菜破碎脱水機

野菜・果実に特化したスクリュー式脱水機と専用破碎機を組み合わせ、野菜や果実に含まれる水分の約70%を脱水できる。

廃棄野菜・果実の処分費を50-70%削減、食品リサイクル法にも対応



機器納入地：岐阜県

機種：野菜破碎脱水機 Dash-1

用途：廃棄野菜・果実の脱水・減容化

● エスイー朝日(株)：平成21年4月株式取得

● (株)キョウエイ：平成22年1月株式取得

建築用資材の製造・販売事業

・主に関東圏・東北圏の建築物件(マンション等(セパレーター)、オフィス等(吊ボルト))に納入



今後は、

- ・2社のオペレーションの共通化・合理化を計り、コスト削減、効率の高い運営をめざす
- ・2011年3月期は年間を通して連結業績に寄与
- ・現在建築用に使用されている商品を土木分野にも拡大、エスイー既存事業とのシナジーめざす。

建築着工状況の回復傾向が業績を後押し

III. SECグループの今後の戦略

1. 2010年度SECグループの戦略
2. SECグループの中長期戦略

1. 2010年度SECグループの戦略

- 年間目標(売上173.5億円／経常利益9億円)達成のために

2010年度通期連結業績予想

(単位:百万円)

売上高	17,350	27.1%
営業利益	814	32.3%
経常利益	900	30.3%
当期純利益	537	35.3%

対前期比3割増を実現するためのグループ戦略

1. 2010年度SECグループの戦略: エスイー

● 株式会社エスイー

環境・防災分野

・アンカーの非法面分野での拡販

← 『岸壁・護岸補強アンカー工法』の評価証取得

← スーパー中枢港湾をはじめとする全国港湾の機能強化・温暖化対策の動き

・落橋防止装置: 補修・補強、耐震分野案件の獲得、シェアの維持拡大



・新規顧客(電力、鉄道、その他民間)の開拓

・既存製品の新用途開発の継続

(アンカー: 防波堤補強、堤防嵩上げ 等)

事業領域の拡大により成長を維持

● 株式会社エスイー

橋梁構造分野

- ・道路橋新設市場における占有率の維持拡大
- ・既設橋における補修・補強分野の販売強化
 - 補修・補強案件獲得のための営業支援強化
 - 外ケーブル市場における製品・施工一体の材工受注の実施
→エスイー建設エンジニアリング本部による施工の実施



製品・施工の一体受注体制を確立

● 株式会社エスイー

建設エンジニアリング分野

・補修・補強施工案件の獲得

- 「斜材架設事業」での経験・ノウハウを生かした補修・補強技術の提供
- 地方自治体も含めたPPPによる補修・補強工事

・斜張橋案件の獲得

- 現在架設中の斜材橋に続く大型案件の獲得

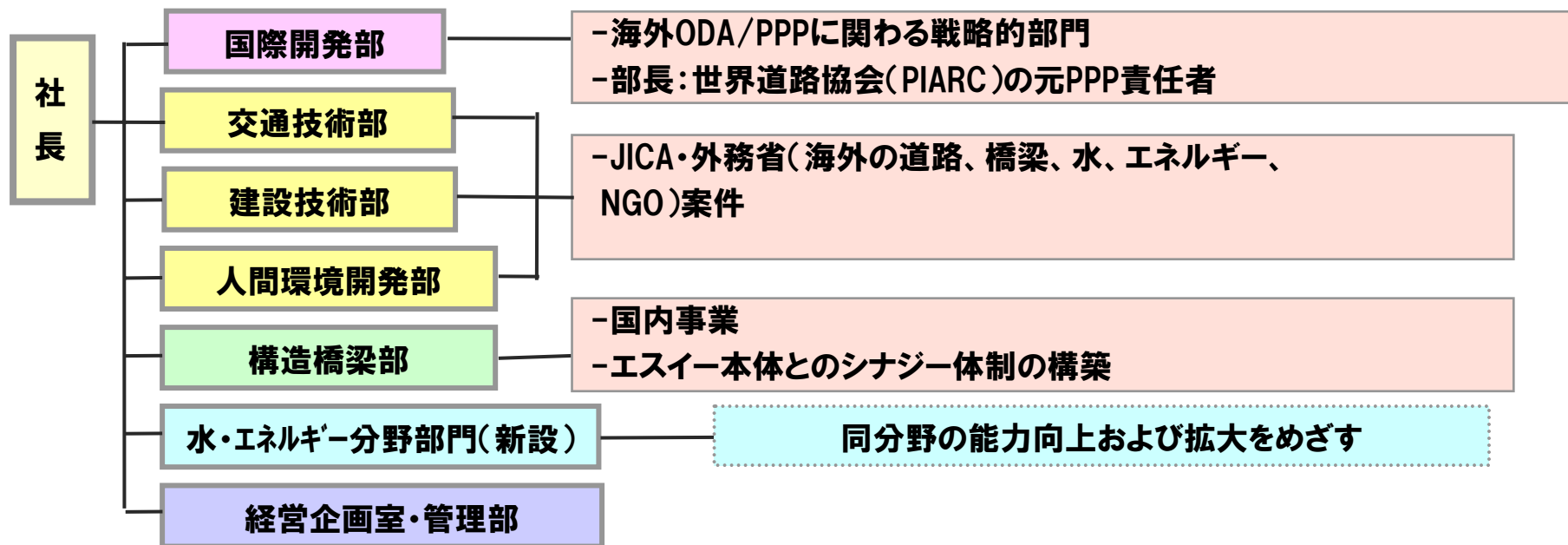


斜材架設事業による高いノウハウ

1. 2010年度SECグループの戦略: アンジェロセック

● 株式会社アンジェロセック

- ・市場では、ODAを中心としたJICAプロジェクトで日本を代表する国際建設コンサルタントとして位置づけられている
- ・国内外におけるPPPの推進
- ・水(上下水道:チュニジア、カーボヴェルデ、モロッコ)やエネルギー(太陽光発電:タジキスタン)分野にも積極的展開



ODA関連事業を基盤に拡大

● エスイーバイオマステクノ株式会社

・バイオマスタウン構想をもつ自治体に対する飼料化事業の推進
← バイオマスタウンアドバイザーとしての活動を通じた食料残渣・飼料化プラントの拡販

・水関連(浄水化、淡水化プラント)製品の製造・販売
- 乾燥機販売に続く収益源の多角化を図る
- 海外(エジプト等アフリカ諸国、東南アジア)への展開(アンジェロセックとの協業)



減圧乾燥機



ウガンダにおける
給水事業評価調査
(アンジェロセック)

水・クリーンエネルギー分野における成長戦略

● エスイー朝日株式会社／株式会社キョウエイ

・収益性の高い運営体制の構築

- 2社の合併も視野に入れながら各機能の共通化・コスト削減等を進める

・土木建設分野への市場拡大も図る



セパレーター
マンション等の
建設に利用



吊ボルト
オフィスビル等の
建設に利用

・建築市場回復の兆しにより今後の業績に期待

- 首都圏マンション市場動向

(株)不動産経済研究所調査)

2009年供給は大幅減の一方で2010年は前年比18.2%増の見込み

- 東京23区大規模オフィスビル市場動向

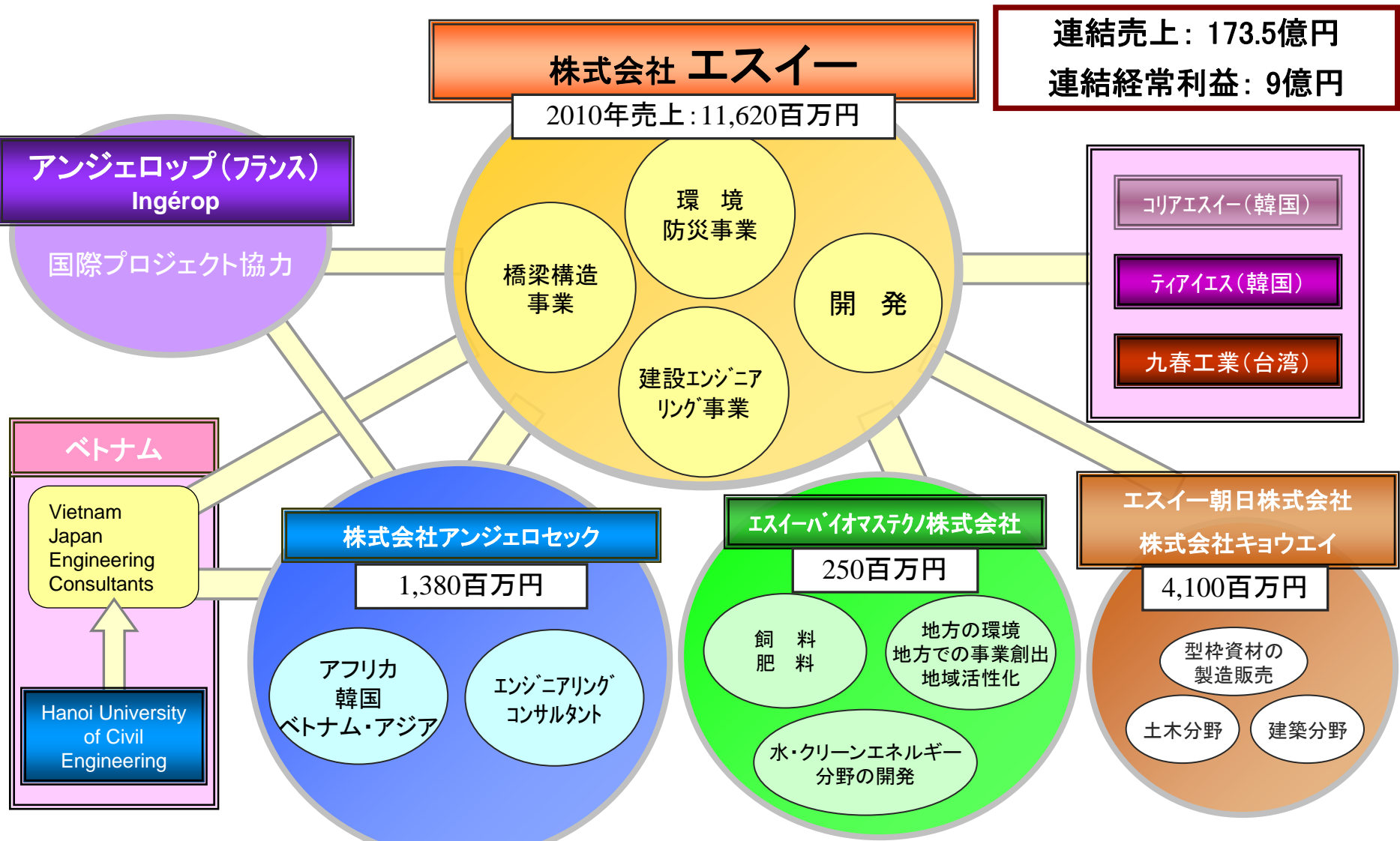
(森ビル(株)2009年12月調査)

2010年供給量(85万平米)は過去平均(103万平米)を下回る

2011年(153万平米)・2012年(140万平米)は過去平均を上回る

首都圏・東日本地域における確固たる顧客基盤

1. 2010年度SECグループの戦略



株式会社 エスイー
2010年売上：11,620百万円

連結売上：173.5億円
連結経常利益：9億円

アンジェロップ(フランス)
Ingérop

国際プロジェクト協力

環境
防災事業
開発
建設エンジニア
リング事業
橋梁構造
事業

コリアエスイー(韓国)
ティアイエス(韓国)
九春工業(台湾)

ベトナム

Vietnam
Japan
Engineering
Consultants

Hanoi University
of Civil
Engineering

株式会社 アンジェロセック

1,380百万円

アフリカ
韓国
ベトナム・アジア
エンジニアリング
コンサルタント

エスイーバイオマステク株式会社

250百万円

飼料
肥料
地方の環境
地方での事業創出
地域活性化
水・クリーンエネルギー
分野の開発

**エスイー朝日株式会社
株式会社キョウエイ**

4,100百万円

型枠資材の
製造販売
土木分野
建築分野

SECグループ構成および2010年度売上目標

III. SECグループの今後の戦略

1. 2010年度SECグループの戦略

2. SECグループの中長期戦略

2. SECグループの中長期戦略：ハイライト

- **中長期的な成長を継続・確実にするための重点施策**

海外事業展開

・アフリカ、ベトナム、韓国

PPP(官民連携)の推進：建設業界の活性化・国際化へ

技術開発、新規事業、M&A

エスイーグループ成長戦略センターの新設

2. SECグループの中長期戦略：海外事業展開

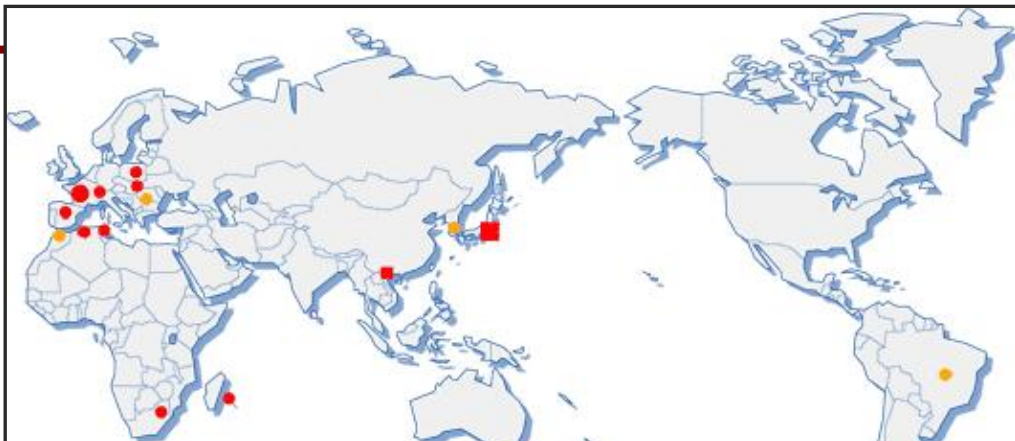
● アフリカ

エスイーグループの強み

- ・エスイー創業以来の協力会社である仏アンジェロップ社が有するネットワーク、主にフランス語圏での豊富な実績・ノウハウ
- ・子会社アンジェロセック(アンジェロップ社との合併)を中心とした展開、ODAプロジェクトの獲得
 - 高速道路などの交通インフラ、水(浄水化/淡水化)、太陽光発電などのPPPによる推進

2010年5月、第二回TICAD閣僚級フォローアップ会合における岡田外相：
ODA倍増等のTICAD IVの公約を必ず
実行するとの決意を表明

<2008年 TICADIVで表明された公約>
2008~2012年で:対アフリカODAを倍増
/民間投資倍増支援/最大40億ドルの
円借款供与/無償資金・技術協力の倍増



アンジェロップ社ネットワーク
本拠フランス他欧州各国、アフリカ主要地域に拠点

世界の注目が集まるアフリカでの高いプレゼンス

2. SECグループの中長期戦略：PPPの推進

● PPPに関わる最近の動向

インフラ整備：国内でPPP/PFIを拡大、海外でも通用するノウハウを蓄積

・2020年までに海外受注を合計10兆円以上

・2020年度までに国交省関連のPPP/PFI事業費を2兆円拡大

(2010/5/17国土交通省 成長戦略会議 最終報告より)

「必要なインフラはこれからも整備をしていかなければいけないし、できるだけ民間の資金というものを使って、PPPというものを主流にしていかなければいけない」

「膨大な今まで作ったインフラというものがあって、これの維持更新というものが今後大変重要」

(2010/5/7前原国交相会見より)

「向こう50年間に社会資本の更新にかかる費用は312兆円に上る」

(2010/5/7日経朝刊、東洋大学根本祐二教授のコメント)

インフラ補修・補強事業や海外展開を後押し

2. SECグループの中長期戦略：PPPの推進

● PPPに関するエスイーの取り組み

仏アンジェロップ社が誇る豊富な実績・ノウハウ

子会社である(株)アンジェロセック(アンジェロップ社との合併)を中心としたPPP推進

- ・アンジェロセック社 国際開発部長：世界道路協会(PIARC)元PPP責任者

東洋大学(根本祐二教授(大学院経済学研究科公民連携専攻))との連携

- ・自治体等への共同提案

国内外におけるPPP関連活動

- ・ベトナム国道路官民研究会(国交省)委員メンバー
- ・JICAによるPPP事業への提案活動
- ・その他広報活動

PPP先進国の豊富な実績・ノウハウを活用

2. SECグループの中長期戦略：アフリカ／PPP

● 新聞紙上でアフリカ／PPPに関する対談を実施

2010年5月27日(木)
『フジ・サンケイビジネスアイ』紙
24・25面
アフリカ／PPPに関する紙上対談

平野 克己 氏 日本貿易振興機構(ジェトロ)
アジア経済研究所
地域研究センター長

牛尾 滋 氏 外務省国際協力局
開発協力総括課長

森元 峯夫 (株)エスイー社長
(株)アンジェロセック会長

**官民連携(PPP)でアフリカ経済発展に貢献
日本の資金・技術力の有効活用を**

■ 鼎談

平野 克己氏
日本貿易振興機構(ジェトロ)
アジア経済研究所
地域研究センター長

牛尾 滋氏
外務省国際協力局
開発協力総括課長

森元 峯夫氏
(株)エスイー社長
(株)アンジェロセック会長

今後有望な原発、鉄道に手当を
土壌問題解決は政府支援必要

国家リスクには法的保護を
牛尾氏 開発援助の新しい制度検討

アフリカの成長は民主導 平野氏

平野 氏のアフリカに関する見解は、アフリカの成長は民主導であるべきであると述べている。彼は、アフリカの成長は民主導であるべきであると述べている。彼は、アフリカの成長は民主導であるべきであると述べている。

根本的な土地問題

平野 氏、土地問題は日本の政府とアフリカの政府との間で解決されるべきであると述べている。彼は、土地問題は日本の政府とアフリカの政府との間で解決されるべきであると述べている。

● 新たな成長のための施策

収益源の拡大を実現する事業開発の推進

- ・既存製品の用途拡大、第三者認証の取得(例:アンカー工法)／事業領域の拡大(例:補修・補強の施工分野への進出)

PPPによる補修補強プロジェクトの創出と新しい事業モデルによる技術の提案で高収益化をめざす

水(浄水化、淡水化プラント)／太陽光発電分野

- ・技術開発、製品化・事業化をめざす

M&A

- ・既存事業とのシナジーを生む事業を中心に



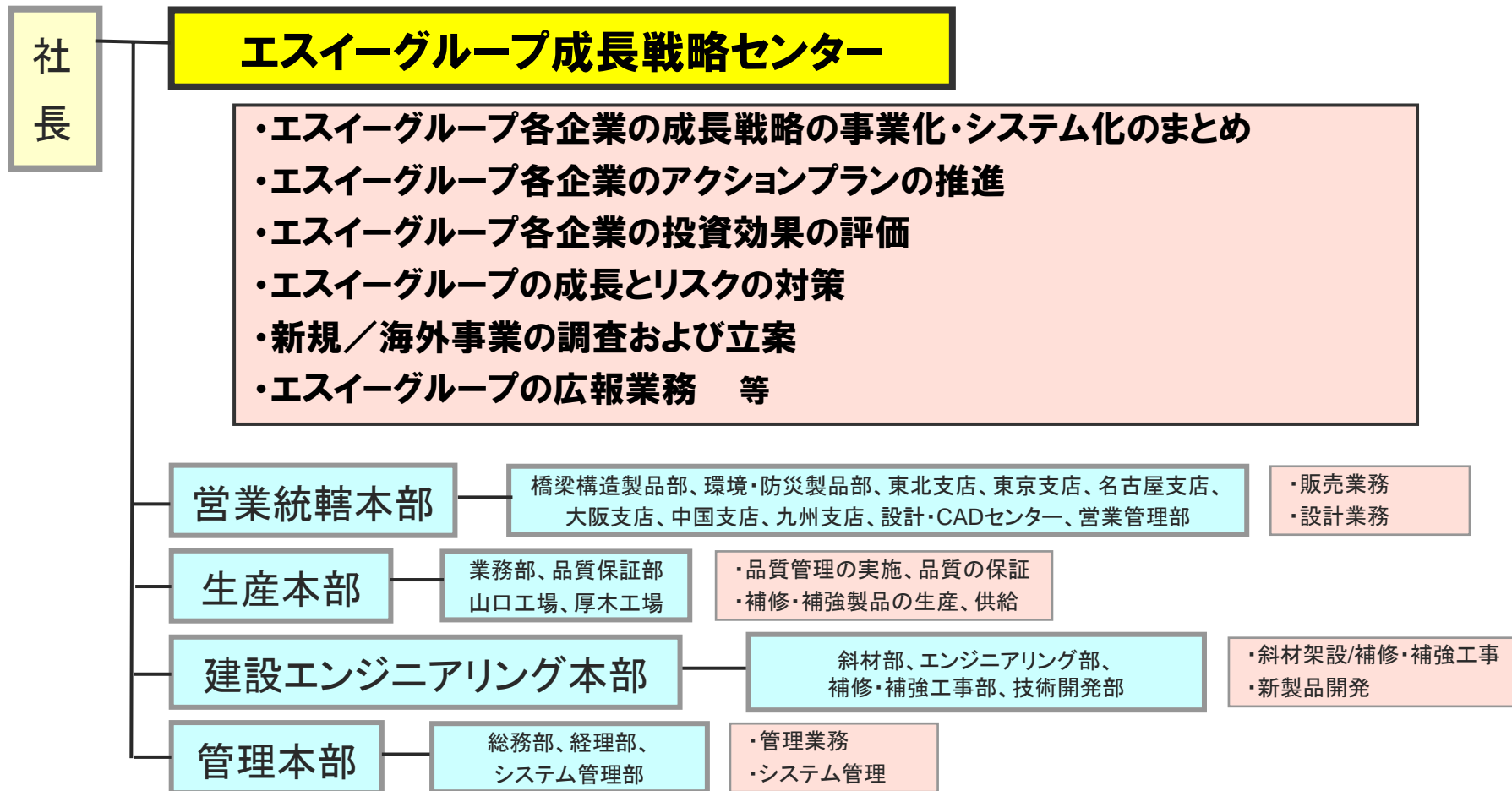
浄水化プラント実験装置



淡水化プラント実験装置

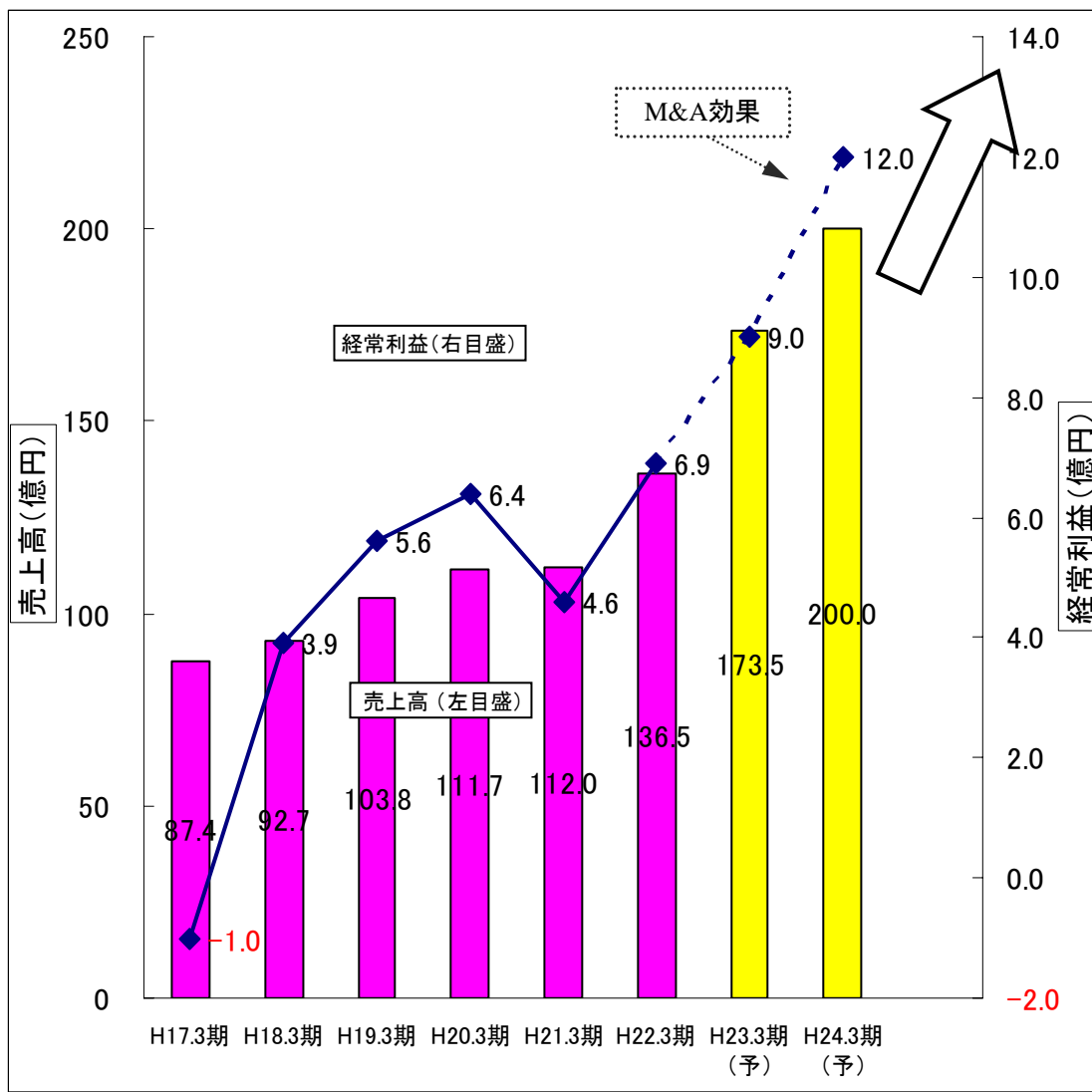
新たな成長ステージに進むために

● 株式会社エスイーの組織体制



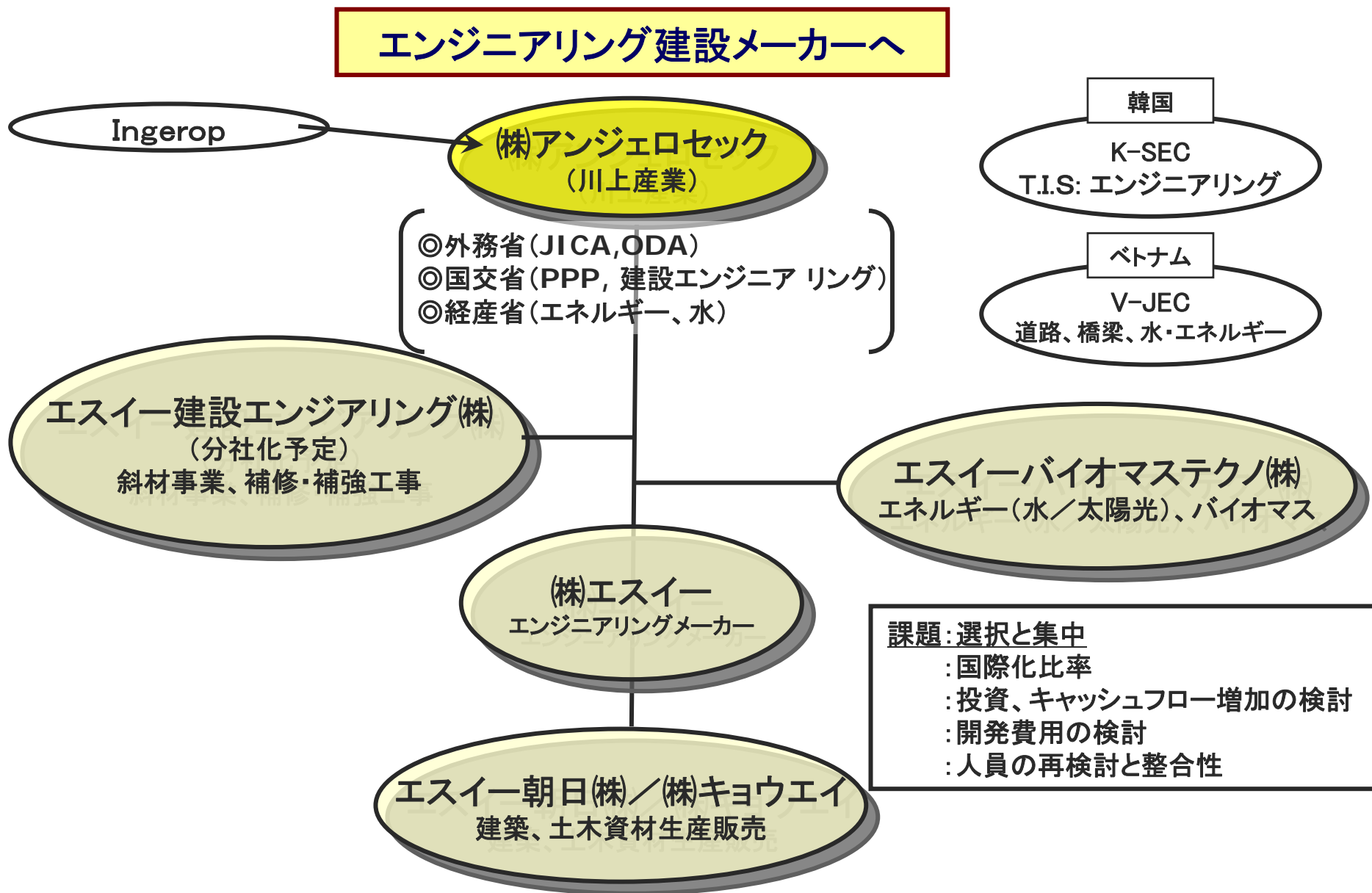
SECグループの持続的成長の実現へ

2. SECグループの中長期戦略：グループ売上／利益計画



来期売上200億円、数年後には500億円企業へ

2. SECグループの中長期戦略：ビジネスフロー構想



ご清聴ありがとうございました

